

# 接尾辞「的」について —話し言葉における「的」を中心に—

朴大王

キーワード 的、先行要素、<sup>タブダ</sup>—답다、代替語、実用性

## 1.はじめに

本稿は、日韓両国語における接尾辞「的」の意味・用法を比較分析すること、現代日本語の中で話し言葉として多用される「的」について調査しその性格を明らかにすることを目的とする。

接尾辞「的」は造語力が強く、派生語として形容動詞を多量に作り出している。一般的に日本語の形容動詞は韓国語の<sup>하다</sup>形容詞に対応するのであるが、韓国語の「적 (的)」は名詞として扱われる。本稿では接尾辞「的」が使われ始めた明治初期から現在に至るまでの「的」の用例を検討し、その意味と用法について韓国語の「적 (的)」との比較を試みることにする。また、日本語の「的」と韓国語の「—답다」との対応についても考察し、さらに現代日本語において話し言葉に多用される「的」とその使用頻度の面から両国語における相違について考えてみる。また、話し言葉における「的」に関するアンケート調査を行いその結果について述べる。

## 2.「的」の歴史

原(1986: 73 - 74)と山田(1961: 59 - 61)によれば、接尾辞「的」は、明治時代の翻訳家グループが、英語の-ticの翻訳に際して、中国語の「的」を使用し、例えばsystematicを「組織的」としたのが始まりであるという。明治10年前後から、人文科学、自然科学を問わず、翻訳を主とした学術書、論文のなかにかなり使われるようになるが、当時は、連体修飾語として助詞「ノ」を伴うものが大半で、「ナ」「ナル」を伴うものはほとんどなかった。例えば、「健康的ノ情感」「化学的ノ反応」などである。

明治14年(1882年)4月に東京大学で編集した『哲学字彙』という一種の学

術用語集が出版される。これが「的」という語に確固たる地位を与え、ひろく  
 学術研究者たちの間で用いられる契機になる。明治15年以降、現代語の「的」  
 の用法に近い「ナ」「ニ」のつく形がようやく出現する。そして「的」は、明  
 治20年前後から、著しく多用されはじめる。

一方、韓国語の「적 (的)」を含む派生接辞に関しては、李敬雨 (1990:200)  
 が次のように述べている。

派生接辞は屈折語尾に比べて不規則で、非生産的で制約が多いというこ  
 とを説明するためには、歴史的な側面も考察しなければならない。ところが、  
 いまだに派生語に対する歴史的な研究は初歩的なレベルにすぎない。  
 (筆者訳)

韓国語の派生接尾辞「的」の初出年代は定かではないが、日本語と同じく西洋  
 からの翻訳書及び学術書とともに入ってきたのではないと思われる。この点  
 については今後の研究課題としたい。

### 3. 「的」の意味と用法

日本語の形容動詞には語根に接尾辞「的」を含むものがかなり多い。調査対  
 象語3641語のうち498語あり13.7%を占める。<sup>1</sup>この接尾辞は日本語においては  
 非常に生産性の高い造語成分である。一方、韓国語において字義的にこれに当  
 たる接尾辞は「적 (的)」である。が、これは하다形容詞の語根とはならない。  
 「적 (的)」の形は名詞として扱われ、終止形「~的だ」は指定詞の「이다」  
 (である)を用いて「~적이다」の形で表わされる。連体形「~的な」は  
 「이다」の連体形を使って「~적인」となり、副詞形「~的に」は助詞「으로」  
 を付けて「~적으로」となる。

- |                   |                          |
|-------------------|--------------------------|
| (1) 積極的 <u>だ</u>  | 적극적 (積極的) <u>이다</u>      |
| 積極的 <u>な</u> 性格   | 적극적 (積極的) <u>인</u> 성격    |
| 積極的 <u>に</u> 行動する | 적극적 (積極的) <u>으로</u> 행동하다 |

<sup>1</sup> 『民衆エッセンス日韓辞典』(民衆書林)と『岩波国語辞典』(岩波書店)を参考に見出  
 し語として収録されている形容動詞を収集した結果、選られた形容動詞の総数である。

接尾辞「的」が日韓の辞書でどのように定義されているかを見ると次の通りである。

【적 (的)】(接尾辞) 主に漢語名詞に付いて、‘その状態にあること’、‘その性質を持っていること’、‘それに関わること’などの意味を表す語、大体抽象的名詞に付くが、具体的名詞に付く場合もある。「科学的」「享乐的」「生産的」「韓国的」「世界的」「パスカルの瞑想」

— 『国語大辞典』(金星出版社：筆者訳)

【てき (的)】(接尾) 名詞およびそれに準ずる語に付いて、形容動詞の語幹を作る。

(ア) 主に物や人を表す名詞に付いて、それそのものではないが、それに似た性質を持っていることを表す。～のよう。～ふう。「母親的な存在」

(イ) 主に抽象的な事柄を表す漢語に付いて、その状態にあることを表す。「印象的な光景」

(ウ) 物事の分野・方面などを表す漢語に付いて、その観点や側面から見て、という意を表す。～上。「学問的に間違っている」[ア～イは、もと中国、宋・元の俗語で「の」の意味を表す助詞であったものを、明治以降、英語の-*tic*を有する形容詞の訳語に用いたことに始まる]

— 『大辞林』(三省堂)

このような辞書の定義の比較からわかるように、韓国語の接尾辞「적 (的)」と日本語の「的」は意味上ほとんど同じであると考えてもよい。しかしながら、用法上は違いが少なくない。例えば、次のような例の「～的」の表現は韓国語では用いられるけれども日本語では使われない。

- |     |                |            |
|-----|----------------|------------|
| (2) | 극단적 (極端的) 인 생각 | 極端な考え      |
|     | 노골적 (露骨的) 인 태도 | 露骨な態度      |
|     | 고식적 (姑息的) 인 수단 | 姑息な手段      |
|     | 성공적 (完成的) 으로   | 首尾よく、成功裏に  |
|     | 거국적 (挙国的) 으로   | 全国的に、国を挙げて |
|     | 거족적 (挙族的) 행사   | 民族的行事      |
|     | 편파적 (偏頗的) 인 보도 | 偏った報道      |

「極端」、「露骨」、「姑息」は日本語では接尾辞「的」と結合せず「ダ形容動詞」

の語根として使われる。「成功」や「挙国」も「的」を付けることができない。「挙族」、「偏頗」は日本語にはない漢語である。

これとは逆に、日本語では使われるけれども韓国語にはない「～的」の表現はかなりの数にのぼる。例えば次のような例がある。

(3) 獸的な行為	짐승 같은 행위 (獸のような行為)
化石的	화석과 같은 (化石のような)
過渡的現象	과도기적 (過渡期的) 현상…과도적 현상 (過渡的現象)
今日的意義	오늘날에 있어서의 의의 (今日における意義)
世間的	세속적 (世俗的)、상식적 (常識的)
形而下的	형이하학적 (形而下學的)
形而上的	형이상학적 (形而上學的)
徹底的な平和主義者	철저한 평화주의자 (徹底した平和主義者)
自殺的行為	자살행위 (自殺行為)
一義的な意味	일차적인 의미 (一次的な意味)
機動的な組織	기동조직 (機動組織)
偽惡的な趣味	위악취미 (偽惡趣味)
偶然的な出来事	우연한 일 (偶然の出来事)
健康的な食生活	건강한 식생활 (健康な食生活)
恒常的な不況	불황의 연속 (不況の連続)
過程的變化	변화과정 (變化過程)
統一的な見解	통일한 견해 (統一した見解)
	의견통일 (意見統一)
刹那的な享樂	순간적인 향락 (瞬間的な享樂)

實際、「～的」という表現については、日本語は韓国語よりもはるかに多様である。というのは、日本語では次の例のように、「地滑り」や「ぬえ」（頭はサルで手足はトラ、体はタヌキ、しっぽはヘビという伝説の怪物）のような固有語あるいは「サロン」のような外来語にも比較的自由に「的」を付加して、新しい表現を作ることができるからである。

(4) 地滑りの勝利	압도적 (圧倒的) 인 승리
サロンの	살롱의 (サロンの)、살롱풍의 (サロン風の)
ぬえ的存在	정체 불명의 존재 (正体不明の存在)

母親的な存在

어머니같은 존재 (母のような存在)

韓国語でも「섬나라적」(島国的)のように固有語「섬나라」(島国)に「的」を付けることがあるけれども、日本語ほど自由には付けられない。

このように、接尾辞「的」を含む表現の多様性の面では日本語の方が韓国語よりも豊かであるが、使用頻度の点では逆の傾向にある。韓国語の方が「的」をより頻繁に用いるようである。このことについては、§5.1で述べることにする。

#### 4.日本語の「的」と韓国語の「-답다」との関係

(3) や (4) の例からわかるように、日本語の「的」という接尾辞は、ほとんどの場合、韓国語の「적 (的)」あるいは「-같은 (-のような)」に対応する。しかしながら、現代日本語の話し言葉における「的」の用例の中には韓国語の「-답다」に近いものが多い。そこで、韓国語の「-답다」の意味と機能を記述した上で、日本語の「的」との対応関係について検討してみよう。

『東亜新国語辞典』では、「-답다」は一部の体言に付いて、「その体言の性質・特性をもっていること」の意味で、形容詞をつくることばであると定義されている。接尾辞「-답다」を持つ語には次のようなタイプのものがある。

- (5) 固有名詞+답다
- (6) 어른(大人)답다, 선생(先生)답다, 신사(紳士)답다, 학생(学生)답다 ...<sup>2</sup>
- (7) 바보(ばか)답다, 병신(間抜け)답다, 거지(乞食)답다, 도둑(泥棒)답다 ...

宋哲儀(1977:30)は、「-답다」はたいてい身分・地位などが高い体言につき「そのような資格が充分ある」ことを表わすとしている。しかし、この説明は(6)のような例にはあてはまるが、(7)にはあてはまらない。沈在箕(1987:383)は「先行素の意味に対する肯定的な価値評価」を表わすとしている。この説明であれば(7)の例もカバーできる。つまり、「거지는 거지답게 행동하는 것이 중요하다(乞食は乞食のように行動することが重要だ)」のような例は、一般社会的には通用しないが、このような否定的内容の単語も乞食たちの特殊社会の価値基準では十分意味をなしうると考えられるからであ

<sup>2</sup> (6) ~ (12) の用例は金倉燮(1993)によるものである。

る。ただし、(6) のような例が (7) のような例より自然に使われうる文脈が多いといった頻度の差にすぎないという。一方、(5) のように固有名詞に「-답다」がつく場合は、身分・地位などのレベルの高低とは関係なく単に「その固有名詞らしい」という先行要素の性質・特徴を表す。例えば、「경영방식이 맥도널드답다 (経営の方式がマクドナルドらしい)」の場合は経営の方式の良し悪しに関わらず良くも悪くもマクドナルドらしいという意味を表す。

金倉燮 (1993: 157) は、「-답다はすべての名詞や名詞句と結合し、一般的に形容詞句をつくる機能を持つ」という。

- (8) 그 집은 재벌이 사는 집답지 않게 평범했다. (あの家は平凡すぎて大企業の会長の家らしくない)
- (9) 그런 사람에게 그런 말을 하다니 과연 너답다. (ああいう人にそんなことが言えるなんて君らしいよ)
- (10) \*그는 따뜻한 情답다. (非文のため翻訳不能)

(8) は名詞に付いた例であり、(9) は人称代名詞に付いた例である。例外的に、(10) の「정 (情) 답다」をはじめ「꽃답다 (花のように美しい), 풀답다 (みっともない), 참답다 (真実である), 실답다 (信用できる), 아름답다 (美しい)」の6語は「名詞句+답다」の形式をとれない例である。

韓国語の形容詞形成語尾には、「답다」のほかに、「-스럽다, -롭다, -하다」などがある。また、「-적 (的) 이다」という表現は、形式的には「名詞+指定制」であるけれども、意味的には形容詞相当である。

- |      |                             |               |
|------|-----------------------------|---------------|
| (11) | 한가 (閑暇) 슨다, 한가롭다, 한가하다 (暇だ) | *한가적 (閑暇的) 이다 |
|      | 번화 (繁華) 슨다, 번화롭다, 번화하다      | *번화적 (繁華的) 이다 |
|      | 공교 (工巧) 슨다, 공교롭다, 공교하다      | *공교적 (工巧的) 이다 |
|      | *정상 (正常) 슨다, *정상롭다, *정상하다   | 정상적 (正常的) 이다  |
|      | *간접 (間接) 슨다, *간접롭다, *간접하다   | 간접적 (間接的) 이다  |
| (12) | 영국의 귀족답다 (イギリスの貴族らしい)       | 귀족적 (貴族的) 이다  |
|      | *귀족 (貴族) 슨다, *귀족답다          | 귀족적 (貴族的) 이다  |
|      | *정 (情) 슨다, 정답다, *정하다        | *정적 (情的) 이다   |
|      | 평화 (平和) 슨다, 평화롭다            | 평화적 (平和的) 이다  |
|      | 신비 (神秘) 슨다, 신비롭다, 신비하다      | 신비적 (神秘的) 이다  |

「-스롭다, -롭다, -하다」による形容詞と接尾辞「的」との関係は、(11)

の例のように、相補的な関係にあるのが普通である。しかし、まれに(12)の「평화적(平和的)、신비적(神秘的)」のように共に可能な場合もある。「-답다」は(12)の「영국의 귀족답다(イギリスの貴族らしい)」のように名詞句とも結合できるが、「-스럽다, -롭다, -하다」にはできない。

日本語の「的」と韓国語の「-답다」との関係は、他の接尾辞「-스럽다, -롭다, -하다」との関係より近い。例えば、(13)の「的」は、最近放送・新聞・雑誌にあらわれた現代的な用法であるが、韓国語の「-답다」と訳した方が自然である。

(13) 松田聖子の女の生き方

長子的性格、次子的性格

彼女は彼女の的に一所懸命にサポートします

モータージャーナリストの草分け的存在であるボールフレール

生憎の雨模様だったが、妙にイギリス的な雰囲気だ

もっと英語的に言ってみてください

마츠다세이코다운 여자의 일생

말아들다운 성격, 차남다운 성격

그녀는 그녀답게(나름대로) 열심히 지원할 겁니다

모터저널리스트의 선구자다운 볼후렐

공교롭게도 비가 내렸지만, 묘하게도 영국다운 분위기였다

좀더 영어답게 말해 보세요

例文中の「-다운」と「-답게」はそれぞれ「-답다」の連体形と副詞形である。韓国語の「的」は、「자연적(自然的), 이상적(理想的), 법률적(法律的)」のように漢字語に付けられるのが普通であり、しかも、どのような漢字語にも自由に付けられるわけではなく制約がかなり強いので、日本語ほど造語力が強くない。また、「的」という表現の硬さのために話し言葉としては使われにくい。したがって、最近日本語の中で用いられる(13)のような「的」の表現は「-답다」で訳した方が自然ということになる。

(14a) “탈런트적” 기질을 보여 줬으나 … (タレント的な気質を見せてくれたものの…)

(14b) 反公務員적인 행동이라고 생각한다. (反公務員的な行動であると思う。)

(14)の例は最近の東亜日報から取り出したものである。両方とも職種に「的」

のついた形でマイナスの印象を与えることがうかがえる。韓国語の「-답다」は一般的に身分・地位などが高い体言について肯定的な価値評価をすると上述した。(14a)は犯罪を起こした女優に関する批判的な記事であるし、(14b)は接頭語「反」からわかるように公務員の不祥事に関する記事のことである。このように最近韓国語の中にもまれにはあるが、書き言葉で(14)のような「的」の用法が現われ始めている。(13)のような、韓国語を母語とする者にとっては理解しにくい「的」については、次の5章で考察する。

## 5. 話し言葉における「的」

「的」という接尾辞が現代語で多用されるようになった根本の原因について、山田(1961:61)は、「日本語に本来の形容詞が乏しいという事情が底流にあるのであるが、接尾の要素として漢語の生産力の大きいことを忘れてはならない」という。また、藤居(1957:71-73)は、「的」の氾濫する理由について、次のように述べている。

形容詞の補充とともに「的」ということば本来の意味のあいまいさにある。つまり機能、領域をはっきり、これこれと示すことがむずかしくなっている。さらに、「的」は、その場の気分で使われている。気分で使われているものが気分で聞かれ、気分で読まれるのである。受け取る方にもあきらかなイメージは浮かばないが、格別摩擦はない。もやもやと、何かが分かったような気分になるわけである。

このように「的」によるあいまいな表現を懸念する声は1950・60年代からあったので、いまさら何をと言えばそれまでである。しかし、上のような批判は、翻訳書・学術書などでの「的」の濫用に対する警戒の声であった。話し言葉では、漢字語+「的」の表現の硬さのためにそれほど用いられてはいなかったようである。一方、現代における「的」による表現は話し言葉でもやたら無秩序に使われているような気がする。(15)の例は、放送と新聞の会話文に現れたそのような濫用とも思われる「的」の例である

- |                                                            |                                                |
|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| (15) 小林さんの的には何がいいんですか<br>わたしの的に言いますと…<br>自分的には良いと思ったんですけど、 | 고바야시씨는 뭐가 좋습니까<br>제 생각을 말하자면,<br>저는 좋다고 생각했지만, |
|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|



貴さんはモテるんだよね。ボクの的には	타카씨는 인기가 있죠.제가
...	보기에는
世の中的にどう見られているのかねえ	세상에 어떻게 비쳐질런지!
!	
隠れ家的存在のロフトバー	은신처와 같은 로프트바
気持ち的に楽	기분상 편안하다
小さい時の憧れの恋だったので...	어렸을 적 동경했던 사랑이
	었기에
黒澤明は神がかり的だった	쿠로카와아키라는 신과 같은
	존재였다
漫画的な発想ですよ「だんご3兄弟	만화같은 발상이군요
」とか	
反日系の人は我田引水的に使っている	반일파들은 자기 좋은 대로
気がするんですよ。	해석하고 있는 것 같아요.
著作権的にはいいと思う	저작권상으로는 괜찮다고 생
	각한다
大手製薬会社だが、ワンマン的社長が	대형제약회사지만, 독재적인
支払いした	사장이 지불했다

(15) の例は、すべて、韓国語では「的」の表現に置き換えることができないため、日本語の学習において問題となる表現である。また、その多くは従来の「的」の用法から逸脱した変則的なものである。このような変則的な「的」の濫用について、浦松（1976：17）は、「おそらく問題をつきつめて考え、それを正確に判断した上で、発言していないためではないか。言い換えれば、あいまいなものの考え方で、あるいはいわゆる「感じ」・「感触」でものを言っているためではないか」と述べている。

### 5.1. 「的」の使用度数の比較

以上に見たように、表現の多様性という点では日本語の「的」の方が韓国語の「적(的)」より多様であるが、使用頻度の点ではどうであろうか。

「-的」形の表現については、§ 3において、韓国語では「-的」が専ら漢語に接続するのに対して、日本語では漢語、固有語、外来語の別なく比較的自由に付くので、韓国語よりも日本語の方が多様であることを指摘した。1997年1月分の『朝鮮日報』と『朝日新聞』の社説に用いられた文を使ってその使用頻度を比較した結果、『朝鮮日報』の社説には164語が使われている。一方、『朝

日新聞』の社説に現れる「-的」形の表現は95語である。

それぞれの社説に使われた大多数の例は日韓共通であるが、目に付く違いと言えば、『朝鮮日報』の例が164語であるのに対して、『朝日新聞』では95語しかないという量的な違いである。1日当たりの社説の分量は『朝日新聞』の方が若干多いこと、また、総度数は（韓国語：320回、日本語：181回／1ヶ月分）韓国語の例の方が若干高いことを勘案すれば、1日当たり語数以上の違いがあると考えられる。

そこで、上の社説資料のほかに、同時期の『朝鮮日報』と『朝日新聞』の読者の投書欄（『朝鮮日報』20日分、『朝日新聞』26日分）及び『大統領演説集』から20篇を選んで、「-的」形の語の使用頻度を調べてみたところ次のような結果が得られた。

(16) 『朝鮮日報』社説	約220字に1回
『大統領演説文』	約380字に1回
『朝日新聞』社説	約500字に1回
『朝鮮日報』投書欄	約650字に1回
『朝日新聞』投書欄	約5770字に1回

これを見ると、「-的」形の実際の使用頻度は、『朝日新聞』の社説と『朝鮮日報』の社説とでは2.5倍ほどの開きがあることがわかる。そして、興味深いのは両新聞の投書欄の場合にはさらに開きが大きく、10倍近い差があることである。『朝鮮日報』の投書欄の頻度は『朝日新聞』の社説における頻度に匹敵する。これに対して、『朝日新聞』の投書欄では「-的」形を用いる頻度ははるかに低く、調査資料全体の中でわずかに「感動的」、「一方的」、「精神的」の3語が使われていたに過ぎない。これは、同じ投書欄であっても、韓国の新聞の場合には政治問題や社会問題をテーマとして堂々の論を展開する場合が多いのに対して、日本の新聞では日常的な出来事に関する意見を述べる人が多いということに起因すると考えられる。

このように「的」の使用頻度の差からみると、これは韓国語においては「固い」文体を特徴づける働きが日本語の場合よりも大きいと言える。

しかしながら、日本語において「的」の使用頻度が低いというわけではない。かつて国立国語研究所の書きことば研究室で、「文芸春秋」など13点の総合雑誌による語彙調査を行った結果、「的」の使用は第10位であった。1位から9位までは、「する（為）」「いる（居）」「いう（言）」「こと（事）」「なる（為・成）」「その（其）」「もの（物・者）」「ある（有・在）」「この（此）」という順である。

これらは日本語の基本語中の基本語でどれひとつなくてはならない語である。それらに匹敵する頻度で「的」が用いられているわけであるから、絶対頻度は非常に高い要素である。韓国語の場合と比較して頻度が低いというにすぎない。韓国語の「的」について同様の調査があるかどうかかわからないが、調査してみれば、順位としては日本語の場合と同程度であろうが、絶対頻度は日本語より高いと予測される。

## 5.2. アンケート調査の結果

話し言葉における「的」の表現について日本語話者を対象にアンケート調査を行った。その結果に基づいて現代日本語における「的」の位置づけについて考えてみる。

まず、上の(13)と(15)との例文のなかから10例を選び、日本語話者にそれぞれ「的」の入った文を「より適切な他の表現」になおしてもらった。また、「的」の表現を日常的にどのくらい用いるかについて調べるため、「よく使う、たまに使う、使わない」という3つの中から選んでもらい、さらに使っている人にはその理由として「流行だから、言いやすいから、無意識に」の3つの中から選ぶか、その他の理由がある場合は、自由に書いてもらった。なお、質問4では「的」による表現についてどう思うかといった、印象・問題点・情報などについても自由に書いてもらった。

調査の対象は、「的」による表現をもっとも多く使うと思われる10代の高校生と20代の大学生合計80名、それに、一般社会人30代12名、40代13名、50代12名、60代以上10名の合計47名、総計127名である。以下、年齢別の相違については、10代・20代・30代以上と、大きく3つに分けて考察する。

(17)

	10代	20代	30代以上	計
男	11名	29名	20名	60名
女	19名	21名	27名	67名
計	30名	50名	47名	127名

男女別では、全体127名のうち男は60名(47.2%)、女は67名(52.8%)である。

まず、質問1は、NHKをはじめ各放送局のニュース番組の中、街角でのインタビューの際、話し言葉として現れた「的」の表現に関するものである。①～⑩の「的」の用例について、どのような表現が「的」の表現に代替されているか、また「的」の表現の中でも多用されるものは何であるかを調べるためのものである。

質問 1. 次の太字の「**的**」を、より適切な他の表現になおして下さい。

ただし、「**的**」を削除する場合は「**トル**」と書いて下さい。

例：マンガ**的**発想ですね「だ**ん**ご3兄弟」とか、

⇒ (のような、らしい)

- |                                |       |
|--------------------------------|-------|
| ①小林さん <b>的</b> には何がいいんですか。     | ⇒ ( ) |
| ②わたし <b>的</b> に言いますと、…         | ⇒ ( ) |
| ③自分 <b>的</b> には良いと思ったんですけど、…   | ⇒ ( ) |
| ④貴さんはモテるんだよね。ボク <b>的</b> には…   | ⇒ ( ) |
| ⑤世の中の <b>的</b> にどう見られているのかねえ！  | ⇒ ( ) |
| ⑥もっと英語 <b>的</b> に试试看して下さい。     | ⇒ ( ) |
| ⑦彼女は彼女 <b>的</b> に一所懸命にサポートします。 | ⇒ ( ) |
| ⑧気持ち <b>的</b> に楽だよ。            | ⇒ ( ) |
| ⑨松田聖子 <b>的</b> 女の生き方           | ⇒ ( ) |
| ⑩値段 <b>的</b> にはあまりかかってないんですよ。  | ⇒ ( ) |

(18) に、質問 1 の答えの中で、もっとも多かった上位順位 3 以上のものを回答者の年令別に挙げた。表 (18) の○は、「他の表現に置き換える必要はなく「**的**」の表現のままでいい」ということを示す。より適切な他の表現を求めたにもかかわらず、○をつけた答えが非常に多かったことは意外であった。それは「**的**」の表現が一般化され定着されたことを意味するのだろうか。少なくとも○をつけた人の大多数は「**的**」の表現に何の違和感をも持たず使っていると思われる。表 (18) で○をつけた比率を年令別にみると、10代 (41%) が20代 (4.7%)、30代以上 (4.9%) に比べ圧倒的に高いことがわかる。

(18)

〈数字は百分率〉

問	年代	答えの多数順位 1	答えの多数順位 2	答えの多数順位 3
①	10 代	○ 46.4	トル 28.6	が思うには 10.7
	20 代	としては 38.8	トル 20.4	としては 10.2
	30 以上	トル 41.4	としては 37.0	としては 6.5
②	10 代	○ 41.9	の考えから 12.9	なりに 12.9
	20 代	なりに 25.0	の考えでは 18.2	としては 13.6
	30 以上	なりに 18.2	らしく 11.4	の考えを 11.4
③	10 代	○ 33.3	トル 25.8	なり 16.1
	20 代	としては 36.7	トル 24.5	では 10.2
	30 以上	としては 54.5	トル 25.0	では 9.1
④	10 代	○ 55.2	トル 17.2	が思うには 17.2
	20 代	トル 25.5	としては 23.4	が思うには 17.0
	30 以上	トル 32.5	としては 22.5	の思う 12.5
⑤	10 代	○ 33.3	トル 30.0	では 16.7
	20 代	トル 50.0	では 32.0	から 10.0
	30 以上	トル 34.8	では 30.4	としては 8.7
⑥	10 代	らしく 34.5	○ 27.6	のように 17.2
	20 代	らしく 37.7	のよう 17.0	っぽく、風 9.4
	30 以上	らしく 53.1	風 14.3	トル、○ 6.1
⑦	10 代	なりに 74.2	○ 22.6	トル 3.2
	20 代	なりに 85.4	出来る限り 4.2	— — —
	30 以上	なりに 70.8	らしく 16.7	としては 4.2
⑧	10 代	○ 80.0	としては 6.7	は 6.7
	20 代	トル 41.7	としては 20.8	○ 16.7
	30 以上	トル 31.9	としては 29.8	の上で 17.0
⑨	10 代	のような 61.3	みたいな 12.9	トル 9.7
	20 代	のような 82.4	○ 3.9	風 3.9
	30 以上	のような 66.0	○ 12.8	風 4.3
⑩	10 代	○ 70.0	トル 13.3	の割に 6.7
	20 代	トル 36.0	○ 26.0	としては 18.0
	30 以上	○ 30.4	トル 26.1	としては 21.7

上述したとおり、⑨番を除いて全問にわたり○の頻度が高かったのに対して、⑩番の場合は年令の別なく○をつけた人が多い。一方、「的」を削除した方がよい場合は、トルと書いてもらったが、その結果、10代（12.8%）に比べ20代（19.8%）、30代以上（19.8%）が「的」の表現に関して否定的に受け止めていることがわかる。また、代替語は年令の別なく⑥・⑦・⑨番の「英語的に・彼女の」に・松田聖子の」は、それぞれ「英語らしく・彼女なりに・松田聖子のような」のように一致するものもあるが、ほとんどは年令により異なる場合が多い。

質問2. あなたは、問題1のような「的」の表現を使ったことがありますか。

①はい（よく使う□ たまに使う□） ②いいえ□

質問3. 質問2で「はい」と答えた方にお尋ねします。なぜ「的」の表現を使いますか。

①流行だから ②言いやすいから ③無意識に  
④その他（ ）

質問4. 「的」による表現について、あなたはどのように思いますか。

（印象・問題点・情報など） ご自由にお書き下さい。

質問2～質問4は、話し言葉における「的」の使用頻度と使用する理由を調べるためのものである。

(19) <単位は名、( )内の数字は百分率>

	よく使う		たまに使う		使う	使わない			計
	男	女	男	女	計	男	女	計	
10代	5 (16.7)	6 (20.0)	5 (16.7)	12 (40.0)	28 (93.4)	1 (3.3)	1 (3.3)	2 (6.6)	30 (100)
20代	4 (8.0)	8 (16.0)	20 (40.0)	10 (20.0)	42 (84.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	8 (16.0)	50 (100)
30代 以上			6 (12.8)	12 (25.5)	18 (38.3)	14 (29.8)	15 (31.9)	29 (61.7)	47 (100)

表(19)は、質問2の結果を一覧表にしたものであり、「的」による表現の使用度数が年令別・男女別に示している。30代以上（38.3%）と比べると、10代（93.4%）、20代（84%）の若い人たちが2倍以上多用していることがわかる。特に、20代の場合は、表(18)で「的」の表現について30代以上の年令と

同じく否定的であったが、使用状況の面においては10代の高校生並に多用している。つまり、10代あるいは20代の若者にとって「的」という接尾辞は、表(18)に挙げた「的」の代替語に匹敵するものであると言える。

次に質問3で、「的」の表現を使っていると答えた人にその理由について尋ねたところ、表(20)のような結果が得られた。理由として二つを選んだ人がいるため、表(19)の使っている人数の総数より多い場合がある。

(20) <単位は名、( )内の数字は百分率>

	流行だから	言いやすいから	無意識に	その他	計
10代		4(14.8)	21(77.8)	2(7.4)	27(100)
20代	3(6.2)	10(20.8)	27(56.3)	8(16.7)	48(100)
30以上		3(13.6)	12(54.6)	7(31.8)	22(100)
計	3(3.1)	16(16.7)	60(62.5)	17(17.7)	96(100)

この結果は多少予想外であった。「流行だから」が最も多いのではないかと予想したのであるが、表に見られるように「無意識に」という回答が最も多かった。「的」はもはや単なる流行語ではなく市民権を得はじめているのではないと思われる。

表(21)は、質問4により「的」に関する意見・情報などについて自由に書いてもらった結果である。3回以上出た13項目を上位から順に挙げたものである。

(21)

順位	質問4の答えの内容	10代	20代	30代以上	計
1	別にいいと思う、なんとも思わない	7	8		15
2	あいまいにごまかす、ボカス表現		7	7	14
3	使わない方がいい		6	7	13
4	わかりやすくなる		9	2	11
5	便利、リズムがいい、言いやすい	1	9		10
6	なんとなくみんなが使うから	1	5	1	7
7	わかりにくくなる		2	4	6
8	聞き苦しい、不快感がある		2	3	5
9	責任を薄めるため、また逃れるために意識していないのでよくわからない	1	1	2	3
	気にする必要はない		2	1	3
	考えたことがない	1	2		3
	おもしろいから		3		3
計		11	56	29	96

「的」の表現の実用的な役割については、物事をはっきり言わずあいまいにごまかしたりボカしたりする機能のほか、リズムの良さまたは言い易さという便利さが挙げられる。年令別に見ると、10代はなんとも思わないという回答をしているが、20代はわかりやすさ、伝わりやすさ、言いやすさなどの便利さを挙げている。一方、30代以上では使わない方が良いという否定的な意見が多かった。そして表(21)以外に30代以上では、「今までの日本語では表わしきれない微妙なニュアンスをこの「的」に込めているかもしれない」、「韓国人日本語学習者の誤用の例として「的」に関わるものが多い」、「造語しすぎてボキャブラリーの貧困さを感じる」、「私としては」より「わたしの」の方が新鮮」といった少数の意見もあった。

## 6.まとめ

本稿の目的は、日本語の形容動詞の語幹「的」と韓国語の派生名詞「적(的)」との対応関係を踏まえ、韓国語の「-답다」との関係及び日本語の話し言葉における「的」の表現を調査することによって、各々の性格を明らかにしようというものであった。

日韓両語において接尾辞「的」は意味上ほとんど同じであると考えてもよいが、用法上では、様々な食い違いがあり、そこに母語の干渉が働いて使い方の誤りが生じる場合がある。韓国語において「的」という接尾辞が話し言葉において日本語ほどは多用されていない理由は次の通りである。

第1に、「的」の先行要素の制約が挙げられる。それは日韓両語における大きな相違点でもある。日本語では漢字語のみならず、固有語あるいは外来語にも比較的自由に「的」が付いて、新しい表現を作ることができる。一方、韓国語では専ら漢字語という先行要素の制約が強いため、日本語ほど自由に付けられない。それは漢字語の結合による文体の硬さを招き、一層話し言葉には現れにくい。また、話し言葉における漢字語に対する抵抗が生じ固有語「-답다」に置き換えられる傾向がある。

第2に、韓国語の「的」の表現は書き言葉としての特徴を持つことが挙げられる。実際、派生語・複合語は日本語における方が韓国語におけるよりもはるかに多様であるが、新聞記事の使用度数の面からみると、韓国語の方が圧倒的に高い。それは日常的な出来事に関する記事より政治や社会問題をテーマとしているものが多いということに起因すると考えられる。

第3に、形容詞を作る固有語の接尾辞「-답다、-스럽다、-롭다、-하다」



の発達が挙げられる。日本語の「的」は、造語力の強い形容動詞の語幹となりうる。これに対して、韓国語では하다形容詞のみならず固有語の「-답다、-스럽다、-롭다」によっても大量に形容詞が作られる。それが「的」の使用域を狭めていると考えられる。

最後に、話し言葉における「的」の表現は、10代の高校生と20代の大学生に多用されていることがわかった。そして「的」の表現を使っている理由に関しては、年令の別なく「無意識に」という答えが圧倒的に多かった。それから「的」に関する意見を問う質問に対しては、「別にいい・なんとも思わない・あいまいにボカス表現」という答えが多かった。つまり、「的」の表現は単なる流行語というものではなくむしろ他の表現の代替語であったり、あるいは言い易さ・分かり易さという実用的な役割を担っていると言えよう。

## 《参考文献》

### 〔韓国語文〕

- 金倉燮（1993）「形容詞 派生 接尾辭들의 機能과 意味（形容詞派生接尾辭らの機能と意味）」李秉根他編『国語学講座3形態』ソウル：太學社pp.151 - 181
- 南基心・高永根（1995）『표준 국어문법론（標準国語文法論）』ソウル：塔出版社
- 宋哲儀（1977）「派生語形成と音韻現象」『国語研究』38
- 沈在箕（1987）『國語語彙論』ソウル：集文堂
- 李敬雨（1990）「派生法」『國語研究 어디까지 왔나（國語研究どこまできたのか）』ソウル大学国語研究所：東亜出版社

### 〔日本語文〕

- 浦松佐美太郎（1976）「的は敵」『言語生活』第298号pp.17
- 遠藤織枝（1984）「接尾語「的」の意味と用法」『日本語教育』53号日本語教育学会pp.125 - 138
- 国立国語研究所編（1957）『現代語の語彙調査 - 総合雑誌の用語（前編）』
- 朴大王（1997）『日本語の形容動詞と韓国語の하다形容詞に関する対照研究』名古屋大学大学院国際開発研究科国際コミュニケーション専攻修士論文
- 原由起子（1986）「的—中国語との比較から」『日本語学』第5巻第3号明治書院

pp.73 - 80

藤居信雄 (1957) 「的ということば」『言語生活』第71号pp.71 - 76

藤居信雄 (1961) 「的の意味」『言語生活』第119号pp.80 - 83

水野義道 (1987) 「漢語系接辞の機能」『日本語学』第6巻第2号明治書院

pp.60 - 84

山田巖 (1961) 「発生期における的ということば」『言語生活』第120号pp.56 -

61